

「生成AIと製造現場の今」を伝える技術情報を発信

2025年11月19日(水)から3日間、パシフィコ横浜で開催された協会主催のEdgeTech+2025。エッジテクノロジーの最新情報を発信した展示会・カンファレンスを振り返ります。

<https://www.jasa.or.jp/expo/>

展示会場

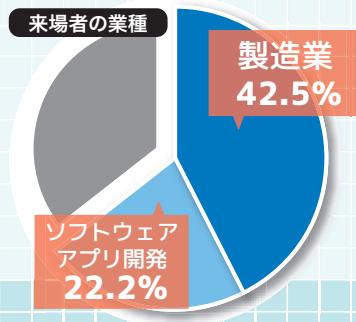


『生成AIで変わる開発現場「コードを書く」から「AIと創る」時代へ』をテーマにエッジテクノロジーの最新情報を発信しました。3日間で32,429名が集った来場者の興味は、52%が「生成AI」と回答するなどAI関連が上位に並び、注目の高さがうかがえました。出展各社が工夫を凝らしたデモ展示に加え、さらに充実した特別企画『オートモーティブソフトウェアエキスポ』、多彩な企画パビリオンなどで全体を構成、最新テクノロジーが一気通貫に体験できる貴重な機会となりました。



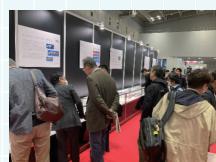
参加企業・団体数 **329社・団体** (343社・団体)
出展小間数 **543社・団体** (613社・団体)
来場者数 **32,429名** (32,427名)

()内は2024年実績



セッション数 **156セッション** (144セッション)
聴講者数 **14,953名** (14,333名)

()内は2024年実績



特別企画PickUp

第4回チップミュージアム開催 中高年に絶大の人気誇る

EdgeTech+会場で3日間だけオープンする博物館がチップミュージアムである。それぞれの時代で最先端の工業製品だった半導体チップ(CPU、メモリ、周辺チップなど)を実物展示する。今回で4回目の開催となった。

チップミュージアムは、i4004やZ80のように歴史的CPUをほぼ網羅し、パッケージの違い、メーカーの違い、ロゴの違いなど、館長の独断と偏見で選りすぐったチップを千数百個、加えて毎年頂くリクエストに応えたチップを展示するところに特徴がある。2025年はさらに4つのコラボ企画をお客さまをお迎えした。

1. トロンフォーラム様の協力による

トロンチップの特別展示

2. 金沢大学 秋田純一先生の協力によるDIY半導体分析の特別展示
3. 著名な圓山宗智氏の協力によるビジコン社4004電卓再現機の動態展示
4. 2年目のコラボ参加となる田山之浩氏の協力による電卓チップの展示

異世界空間を醸し出す

会場の床に張られた赤い絨毯に一步踏み込むと、そこは結界の中。誰もが異世界に転移する。当時技術を磨き、競い合ったコンペチタの面々はここでは昔話に花を咲かせお互いの健闘を称えあう仲間になる。これを館長はおじさんホイホイ効果と呼ぶ(女性が少ないのがちょっと悲しい)。

チップミュージアム館長
収集家
秀関 快郎 (しゅうせきかいろう)

館長の秀関快郎は勿論本名ではない。家族が考えてくれたものだ。ネットの姓名判断ではビジネス運以外は全て大吉だ。素晴らしいコレクションをお持ちの皆さんも是非ペンネームならぬチップネームを名乗り、コラボ展示企画に参加してほしい。

毎年全面的なご支援、広大なスペースとユーティリティをご提供いただいている協会並びに展示関係者の皆さま、コラボ展示に貴重な展示物をご提供いただいたパートナーの方々、お手伝いいただいた常連各位、熱い議論と貴重なご寄付をいただいたお客様に厚く御礼申し上げる。

おかげさまで今年の展示は過去最高の出来となった。次回の更なるパワーアップにもどうかご期待いただきたい。

グローバルフォーラム2025 開催報告

「世界のHUBシンガポールに学ぶ!～AIが加速する製造業革新とグローバル戦略の最前線～」がテーマでした。世界のHUBであるシンガポールに焦点をあて、AI戦略を含む国家戦略、先進製造ハブの価値、未来の製造業のカタチ、グローバルビジネスの未来、シンガポール起点ビジネス展開戦略と幅広いテーマでフォーラムを開催した。

国際交流委員会委員／
株式会社金沢エンジニアリングシステムズ
中西 尚子



●キーノート

アジアの先進製造ハブとしてのシンガポールの価値

シンガポール経済開発庁 日本事務所長

Kwek Cheah Ming 氏

東南アジアの交通の要所であるシンガポールは、貨物船便や航空便が豊富で、貿易に極めて適した環境を備えている。周辺諸国に近接していることからビジネスのハブとしての役割も果たし、金融・貿易・観光のイメージが強い一方で、製造業も盛んである。実際にGDPの17.3%を製造業が占めており、国の経済において重要な柱となっている。AIを導入した先進的な製造関連技術を推進し、今後10年間で50%の成長を計画している。労働集約型からテクノロジー主導型へと移行し、持続的な発展を遂げている。さらに人材育成を強化しているため、高いスキルを持つ人材の割合が多いことも特徴である。



●講演①

日本からシンガポールに移った企業が語る 未来の製造業のカタチ

技研サカタ シンガポール(株) 日本駐在事務所長

大塚 晴彦 氏

1970年にカセットデッキのメカ設計・組立てでシンガポールに進出した日本企業は、1992年に本社をシンガポールへ移転。組立工場として発展を続け、現在に至っている。特に「SIJORI成長トライアングル」を活用した製造業の展開が注目される。近年はシンガポールに近接するインドネシア・バタム島が脚光を浴び、労働力を活用した工場や電力を活用したデータセンターが増加している。バタム島への製造業の進出に伴い、人口も50年前の約9,000人から現在は約120万人へと急増している。さらに、技研サカタは次の35年を見据え、遠隔×分散型のものづくりを目指しており、広域的な産業ネットワークの構築に挑戦している。



●総括

シンガポールは、金融や観光の都市国家という枠を超えて、製造業とAI技術を融合させた新たな成長モデルを描いている。日本企業にとっても、シンガポールを起点とした東南アジア全体への展開は、大きな可能性を秘めているのではないだろうか。今後のアジアの産業地図を考える上で、シンガポールの動向から目が離せない。

会場開催のグローバルフォーラムに多くの方に来場していただきました。講演者の方々、そして講演に協力して頂いた方々に感謝いたします。

たくさんの方に聴講していただけるような講演内容を発信できるように取り組んでまいります。また、国際交流委員会では、海外ビジネスの促進、海外人材の活用をテーマに、皆様方に役立つ国際情報を発信して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

●講演②

グローバルAIビジネスの未来像： シンガポール企業が語る最前線

NCS Pte Ltd ジャパン コリドー統括 ディレクター

尼子 公仁 氏

国営から民営へと移行し発展を遂げたNCSは、日本の電電公社がNTTへと転換した歴史と酷似している。現在、ヘルスケア、交通(特に空港)、金融サービス分野で東南アジアNo.1の地位を誇り、中国・香港・オーストリアへシステムを輸出するなど、グローバルな展開を加速させている。日本企業にとってシンガポールは、AIサービスの起点、海外拠点のデジタル管制塔、人材活用の場として重要な役割を担い得る存在である。



●講演③

日本企業が語るシンガポール起点のビジネス展開

情報技術開発(株) 常務執行役員

細井 一雄氏

シンガポールを拠点として、東南アジア地域におけるSAP導入支援事業の拡大を進めている。国ごとに異なる行動、思考、習慣への苦労もあるが、それを受け入れることが成功の鍵となる。



- ・シンガポール：合理的な発想、政府の圧倒的な力、物価は日本の3倍、時に上から目線
- ・ベトナム：人柄は優しくまじめ、ITや語学力に優れる、女性の活躍が目立つ、3年で職を変える傾向
- ・マレーシア：陽気で明るく調和的、時にいい加減、貴族階級の存在が力関係に影響
- ・インドネシア：優しい性格だが意見が合わないと過激化、宗教色が強く、テロへの警戒が必要



仮説検証ブートキャンプ

企画プレゼンテーション

2025年11月21日(金)

7チーム総勢36名が、Edge Tech+2025の会場内で行った「仮説検証ブートキャンプ」の企画プレゼンテーションについて報告します。「災害発生時には、デジタル嫌い又は苦手な人にITでどのような価値を提供できるか?」をテーマに、アクティングアウト(寸劇)形式で発表しました。たくさんの方に足を止めていたとき、寸劇を見て頂けました。

今回の特徴の一つは、新たに開発した「仮説検証キャンバス」というツールを用いて、仮説検証を繰り返したプロセスを見る化したことです。3回の仮説検証の繰り返しを表にまとめることができます。プレゼンテーションでも審査員の方に仮説検証のプロセスを明確に伝えることができ、ご好評をいただきました。

仮説検証ブートキャンプ <https://hv-bootcamp.biz/>

参加者からの反応は良好でした。HCD(人間中心デザイン)の手法と仮説検証を繰り返すことでチームとしてアイディアをブラッシュアップしていく過程を、実践形式で学ぶ事ができ、大変有意義な経験ができたとの感想を頂きました。事務局としては、次年度に向けて更なるブラッシュアップを行う予定です。

各チームのソリューションと受賞チームは以下のとおりです。最優秀賞と優秀賞は審査員の6名の投票と議論で選定、HCDファシリテーター賞は8名のファシリテーターの投票と審査員の議論で選定、オーディエンス賞は会場からの一般投票(0~3点で投票)をもとに選定したものです。

企画プレゼンテーションの模様



表彰チームとソリューション概要

練馬区水害対策室

『避難後パーソナルケアサービス』

2~3年後の近未来を想定し、生体認証などのITを活用した避難向けソリューションを提案。



最優秀賞

お嬢

『LINEギフト災害支援』

LINEギフトを活用して被災地へ物資の支援を行います。



優秀賞

チームふみ 『そなポイ』

防災支援×ポイ活会話型アプリ「そなポイ」は、日常で防災クイズやミッションに挑戦し、ポイントやクーポンを獲得できて家族と共有しながら楽しく防災を学べます。



HCD ファシリテーター賞

D-button(ディーボタン)

『MAMOLINK(マモリンク)』

「MAMOLINK」は、災害時にスマホが使えないでも「安全」や「助け」を伝えられるお守り型デバイスです。



オーディエンス賞

■その他参加チームとソリューション名

みちしるべ開発部『AI電柱』、NOBU☆NOBU『ねりまーく』、みまもり隊『せたがや見守りステーション』

ETロボコン2026

25年目を迎えるETロボコン。

四半世紀にわたり、IT・組込み分野の未来を担うエンジニアたちの“成長物語”を紡いできた学びの舞台が、今年も幕を開けます。IT人材の不足が「量」だけでなく「質」の課題へと広がるいま、ETロボコンは単なる技術コンテストではありません。テクニカルスキルを磨くだけでなく、仲間とぶつかり、支え合い、チームとして前に進む力——そのすべてを体験できる“実践の場”として注目されています。

掲げるテーマは、「ヒトと組織が共に成長」。参加するエンジニア

ア一人ひとりの挑戦が、企業や教育機関という組織の成長にもつながる。そんな“共進化”的なサイクルを生み出すことこそ、ETロボコンが25年間大切にしてきた価値です。

エンジニアの持久力を鍛えるのは、一夜漬けの学習でも、単発の研修でもありません。継続的な学びと実践を通じて、自分の成長を“手触り”として感じられる環境。ETロボコンは、そのための最適なフィールドです。25年目の今年、次の未来をつくるエンジニアは、ここから生まれます。

ETロボコンHP <https://www.etrobo.jp>

2026シーズンの情報を
2月上旬に公開予定

IT・組込み企業のお困りごと2トップを体験下で学ぶ

学びの砂場

ソフトウェアの評価は、設計で決まる

教育機関や企業でも聖域

教育：そもそも「設計」の概念を知らない
企業：「設計」を学ぶ時間の確保が困難

学びの砂場

重要なのは、実践型のコミュニケーション

コミュニケーションとは？
× 他人と仲良く話せること
○ 相手と意思疎通すること

求めるコミュ力とは？
× 結果だけを求めるコミュ力
○ 値段を見極めるコミュ力

タイプ別で結果を導き出すコミュ力ではなく、
業務プロセス(目的)の視点でやり方を導き出すコミュ力

ETロボコンの特徴は4つ

ETロボコンとは

特徴3つ + 1つ

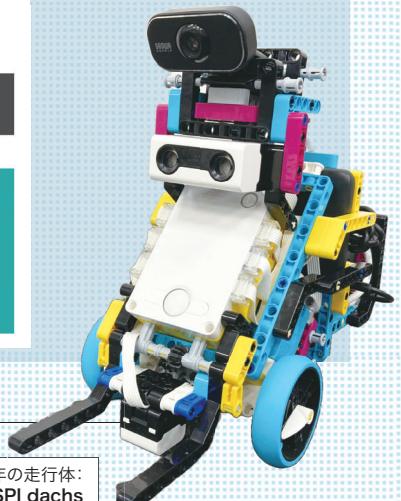
1. 企業と教育機関のガチンコバトル
2. ソフトウェア重視の教育型ロボコン
3. 設計技法(モデル図)も評価対象
4. コミュ力アップの修練道場(スキルを磨き鍛えること)

エンジニアの人材育成でお悩みの方は、まずはご相談ください！

オンライン相談会は随時開催しておりますので、お気軽にご相談ください。

詳しくは、ETロボコン事務局(secretary@etrobo.jp)までお問い合わせください。

2025年の走行体：
HackSPI dachs



EdgeTech+ 併催イベント **ETロボコン チャンピオンシップ大会** 2025年11月20日(木) 決勝大会 21日(金) ワークショップ

EdgeTech+2025(11月20日、21日)にて開催されたチャンピオンシップ大会には、36チーム(プライマリークラス30チーム、アドバンストクラス6チーム)が進出しました。プライマリークラスの競技部門では「TIIS-Mates(豊田自動織機 ITソリューションズ)」が優勝。アドバンストクラスでは競技・モデル両部門で好成績だった「札幌ギアワークス(リコーITソリューションズ(株))」が総合優勝を輝きました。

チャンピオンシップ大会の結果 https://www.etrobo.jp/championship2025_award/

